



## すぐに使える

## 『ユニバーサルデザイン授業』の工夫

～通常学級での実践ヒント集～

Tel : 0772-22-2175 Fax : 0772-22-0479  
HP : <http://www.kyoto-be.ne.jp/tango-k/cms/>

この便りは、平成 25 年度丹後特別支援教育研究会の協力を得て作成しております。

近年、幼稚園・保育所から小学校への「小1プロブレム」、小学校から中学校への「中1ギャップ」といった校種間でつまずき、新しい学校生活をスムーズに送ることが苦手な児童生徒が増加している現象が見られます。その時、保護者や教職員はどんな支援ができるでしょうか？

## 小1プロブレム・中1ギャップとは

新しい環境での学習や生活にうまく適応できない状態

## 【小1プロブレム、中1ギャップ解消に向けて】

多くの学校で、保・幼・小・中学校連携の取組を進めています。全国的には、小中一貫教育を推進しているところも増えてきており、校種間の連携が進んできています。まずは、児童生徒にとって、**新たな環境（場所、時間、友達関係など）に対する『不安』**が大きい、ということを理解しておくことが大切です。

## 【どんな様子？】例えば…

授業中に座ってられない。

話を聞くことができない。

人間関係・集団生活がうまくいかない。

生活面・行動面でミスやトラブルが多い。



## 【どんなことが考えられる？】

児童生徒一人一人によって、つまずきの原因は異なります。例えば…

(例1) 担任がかわったり、学級担任制から教科担任制となるなど、教員によって指導方法や授業スタイルが異なることに適応できない。

(例2) 子ども同士よりも大人とのかかわりを求め、友達とのかかわりがうまくもてない。

小1プロブレム、中1ギャップ解消のポイントは…

## 〇ピア・サポート（子ども同士で支え合うこと）

★児童生徒間のつながりが早期にできる。

★児童生徒間への関わりが増え、教職員の協力体制も促進される。

◆支援を必要とする児童生徒の支援の一例です！**児童生徒に応じて、状況の把握&教員間の相談&支援の振り返り**が大切です。

## ①学習面 教科で臨機応変に対応することが大変なとき

- ・言葉の理解⇒音読練習・言葉調べ（家庭・通級指導教室）
- ・教科ごとのルールを理解⇒個別の声かけ、個別指導

## ②生活面 遊び中心から学習中心となり、制約時間が増え、心身の負担が増加したとき

- ・忘れ物⇒メモを書かせて、大人とともにチェック
- ・身辺整理⇒定期的と一緒に作業（時間や曜日を決める。）
- ・行動特性を把握し教師間で共通確認⇒長所を見出す。

## ③心理面 自分の思いが伝えられず、不安定な状態が続くとき

- ・担任と児童生徒との安心感  
⇒定期的な面談の継続実施（時間や曜日を決める。）  
⇒困ったときに、教職員や友達に支援を求められることができる関係づくり

# 学級アセスメントと気になる児童生徒のアセスメント

特別支援教育のアセスメントとは、様々な角度から児童生徒の教育的課題を明らかにし、有効な指導や支援の手立てを考えることを目的として進められるプロセスのことです。支援を必要とする児童生徒のアセスメントには、通級指導教室や支援センター等で行う各種検査が用いられます。これは、個人の能力や特性を把握し、有効な支援や指導の手立てを考えるために必要なアセスメントのツールの一つです。支援を必要としている児童生徒への適切な支援や指導を考える場合、児童生徒が所属する集団をアセスメントすることも大切な視点です。児童生徒は学校の中で集団活動を中心に過ごしているので、個人と集団の支援や指導がバランスよく行われることが大切です。

学級や学年全体の特性や傾向を見るツールとして「アセスメントシート」があります。これは、「読む」「書く」「話す」「聞く」「多動・衝動」「ルールの理解」など、特別支援教育の視点から集団の苦手と得意を簡単に把握するものです。このシートでは、チェックの数が多い項目がその学級や学年集団のつまずきと考えられます。これは授業づくりにおいても活用できます。教科の観点から学力の評価を行うとともに、学び方の観点から学習のつまずきと学習の仕方（学習スタイル）を分析・把握することで、気になる児童生徒を含めた学級全体への効果的な支援や指導の手立てが検討しやすくなります。

学級アセスメントシートの例（一部） ★数字は出席番号

参考文献 「学校で活かせるアセスメント」, 明治図書, 筆倫子編著

観点	項目	1	2	3	4	5	6	7
聞く	聞いたことをすぐ忘れる。			✓				
	一斉指示を理解しにくい。	✓		✓	✓	✓		✓
話す	文法的に不正確な話し方をする。言葉の意味を間違えて使う。							
	内容を分かりやすく伝えることや、筋道の通った話をするができない。			✓				
読む	文字や行を読みとばしたり、語尾を変えて読んだりする。			✓				
	習った漢字が読めないなど、音読がすすらでできない。	✓	✓				✓	
書く	文字（ひらがな・漢字・アルファベット）が正しく書けない。助詞を間違える。		✓	✓			✓	
	考えや感想が書けない。							
不注意	気が散りやすく課題に注意を持続することが難しい。			✓				
多動・衝動	順番を待つことができない。			✓				

## 学級のつまずきの傾向

アセスメントシートから  
一斉指示が理解しにくい。  
読むことが難しい。  
漢字の理解が難しい。

## 支援の例（一部）

- 短く分かりやすい言葉で指示を出す。
- 板書をして説明する。
- 教材文は大判にし、行間をあける。
- 漢字やひらがなの指導では、形を言語化したり意味付けしたりする。

## 発達障害の特性

各種検査から  
聴覚的な記憶の問題  
不注意傾向  
複雑な形が捉えられない。

アセスメントを行うことで、その児童生徒を詳しく知らない教職員も該当児童生徒について掌握しやすくなります。校内の教職員が児童生徒の課題を共通理解することで、学級や学年、または通級による指導、少人数指導などいろいろな学びの場での指導効果が期待できます。

☆次回の5月号の内容は「ユニバーサルデザイン授業・定期テストについて」を予定しています。